

冬こそ、
ゆっくり
寺院へ。

左ページの写真は、1階の礼拝所。壁のくぼみはイスラム教の聖地(マッカ)の方向を差し、「アッラーのほかには神なし」とアラビア文字が刻まれている。ステンドグラスから黄金色の光がそそぎ、礼拝の時間を優しく包む。

まずは神戸。 街に溶け込む モダンな寺へ。

▷神戸市中央区中山手通2-25-14
☎078-231-6060
見学応相談 ※1日5回の礼拝時間
帯を除く。予約がベター @なし
電車の道案内/各線三宮駅から北
西へ徒歩約10分 地図はP3を参照



神戸ムスリムモスク

シンボリックな4本の塔は、かつて礼拝時刻を知らせるために使われたとか。礼拝は早朝、正午過ぎ、遅い午後、日没後、就寝前の1日5回が基本。金曜午後12時30分からの集団礼拝には約200人も信者が集う。礼拝時間以外は見学可なので受付で相談を。喫煙や酒気はNG。

お寺をめぐるなら、ぜひ冬に。紅葉や桜の季節にはない静謐な空気感が、寺院の趣さによく似合う。寒さも味方にして、ゆっくり時間をかけて過ごしてみよう。

まずは神戸、三宮山手のお寺めぐりへ。異人館が点在するエキゾチックな町では、さまざまな国や宗派の寺院に出合える。遠くからも目を引く4本の塔、ぶつくりと丸いドームは、イスラム教寺院の「神戸ムスリムモスク」。完成は1935年で、神戸大空襲や阪神淡路大震災も乗り越えた、日本で現存する最古のモスクだ。眺めるだけで厳肅な気持ちになるが、「お祈りの時間以外なら、中を見学いただけますよ」と来日37年になる理事の新井アハサンさん。異国で過ごす信者たちの祈りの場ゆえ、神聖な気持ちでお邪魔したい。

神戸・北野の立ち寄り
クスム本場家庭料理

クスムほんばかていりょうり
マンション一室の有名なスパイスショップ兼料理店が2012年4月に移転。現地の食材が目白押し店内、インドのお母さん・クスムさんが腕をふるうベジタリアンの家庭料理は健在だ。「カレー、ライス、チャパティ、お代わりOK。おなかいっぱい?」と温かいもてなし。



昼はセットメニュー980円のみ。カレー数種のワンプレートにサモサやサラダが付く。夜は要予約。シュクラさん(左)とクスムさんがここにこお迎え。



▷神戸市中央区山本通2-12-21 異人プラザ203 ☎078-221-0229 午前11時30分～午後2時30分、午後5時30分～午後8時(食材店は午前10時～午後7時) ※夜は要予約 月曜休(食材店は無休) ◎なし 道案内/各線三宮駅から北西へ徒歩約10分



1985年完成。不殺生を教義とするためカゾウや馬、魚、鳥など動物の彫刻が各所に、以前は一般見学を行っていたが現在は定例見学はできない。

バグワン・マハビールスワミ・ジエイン寺院
はっとするほど美しい純白の建物は、インドの宗教(ジャイナ教)の寺院。仏教の開祖ブツダと同時代の聖人マハーヴィラを信仰し、歴史は2500年以上。信者は不殺生、非暴力、非所有などの教義に厳格な生活を送るといふ。その清らかさが、建物からも伝わってくるよ。

▷神戸市中央区北野町3-7-5 内部見学不可(通りからの外観見学のみ) ◎なし 道案内/各線三宮駅から北西へ徒歩約15分



関羽は商売繁盛の神様とされる。登龍門では「刀彫り」の見事な龍、天井絵をしつくり鑑賞。お詣り後は優美な八角形の四阿(あすまや)でひと休み!

関帝廟

かんていびょう

閑静な住宅地、突如現れるカラフルな建物は、三国志の英雄・関羽をまつた廟所。入口から中華ムードたっぷりの山門、(鯉の滝のぼり)の故事になぞらえた登龍門をくぐって本堂へ。屋根の上の仙人や龍、欄間の透かし彫り、天井の絵画など見どころがたくさん。

▷神戸市中央区中山手通7-3-2 ☎078-392-2711(中華会館) 午前9時～午後5時 参拝自由 ◎なし 道案内/阪急神戸線花隈駅から北西へ徒歩約5分



本願寺神戸別院

ほんがんじこうべついん

親鸞聖人が開いた浄土真宗本願寺派の別院。木の伽藍のイメージをくつがえす、希少なヘインド仏

教様式の寺院が神戸・花隈に。その斬新なデザインは1930年に建てられた旧寺院を受け継ぐもので、「当時は物が無い昭和初期。時代に先んじた建物は、(仏教を守っていく)という気概の表れだったのでしょう」と副輪番の尾井秀瑛さん。1995年に改築された現在の寺院に、5本の塔、外壁に飾られた観音・勢至菩薩のブロンズ像、ステンドグラスの窓に目を奪われる外観。さらに3階の本堂には、きらめく黄金の欄間や厨子が、美しい天上世界の再現に引き込まれてしまう。

改築中に起きた阪神・淡路大震災を乗り越え、1995年9月に完成。復興への応援歌として毎日午後8時までライトアップされる。内陣のゴージャスな欄間は(阿弥陀聖衆来迎図(あみだしようじゅうらいごうず))。阿弥陀如来が菩薩を従えて浄土から現れた様子を精巧な彫刻に。アーチ型の天井、石窟寺院をイメージした石柱ともしっかりなじむ。

▷神戸市中央区下山手通8-1-1 ☎078-341-5949 午前9時～午後4時30分 拝観無料 ◎なし 道案内/阪急神戸線花隈駅から西へ徒歩約1分



神戸への車の道案内 阪神高速神戸線生田川または京橋出口から北西へ約5分

播州の立ち寄り
シャレード 加東市

喫茶に軽食に、30年以上地元で愛される憩いのカフェ。2年前に始めたピZZAは、イタリア産小麦粉を使った生地を、高温の薪窯で焼き上げた本格派。定番のマルゲリータのほか、クリーム系、オイル系、デザート系まで20種類以上そろい、目移りする楽しさ。



マルゲリータ1,100円。午後3時まではサラダドリンク付きランチ1,000円も。フルーツ盛りだくさん! 写真奥のいちごのデザートピZZA1,800円は5月まで。

▷加東市天神6-1 ☎0795-47-1415
午前11時30分～午後9時 月曜(祝日の場合翌日)休 @15台 道案内/電車→JR加古川線社町駅から神姫バス、東条BS前下車徒歩約5分 車→中国自動車道ひょうご東条ICから北西へ約5分

加古川農家食堂

かこがわのうかしょくどう | 加古川市

米ぬか、釧路産サンマ魚粉など自家配合飼料にこだわり、卵づくりに情熱を注ぐ「オクノ」が、新鮮卵が楽しめる食堂を昨年6月にオープン。人気は〈第8回日本たまごかけごはんシンポジウム〉の優勝メニュー。トッピングのイカナゴやノリ、米も地産地消の旨さ。



イカナゴの甘辛さが濃厚な卵に合う! 大会優勝メニュー。600円のセットは鶏団子汁、野菜の一品が。「だし巻き卵は持ち帰りも」と3代目奥野さん(左)。

▷加古川市加古川町寺家町17-3 ☎079-422-5333
午前11時～午後6時30分 日曜休 @3台 道案内/電車→JR神戸線加古川駅から南西へ徒歩約5分 車→加古川バイパス加古川ランプから県道18号線を南西へ約3分

播州が誇る
仏教美術が、
新しい宝物館に。



盗賊が盗み、溶かそうとした時「あいたた」と声を上げた伝説がある仏様。海外の美術展でも大人気だった白鳳仏の傑作。



「太子堂の内壁に描かれていた涅槃図などを、極彩色で復元した原寸大の絵も見ごたえ十分ですよ」と幹住職。新宝物館は太子堂再建900年を記念し昨年秋に完成。

鶴林寺
かくりんじ | 加古川市
飛鳥時代、宗教争いを避けこの地に身を隠した恵便法師を、慕い訪ねた聖徳太子が創建した寺。鎌倉から室町時代に太子信仰の高まりで全盛期を迎え、本堂と太子堂の国宝2堂をはじめ貴重な建築が今も残る。新宝物館では「あいたたの観音さま」と親しまれる重要文化財の仏像、絵画、工芸品を展示。「これだけの寺宝が戦災を逃れて守られてきたのは奇跡的。500年、1000年後に伝えたい」と幹住職。じっくり鑑賞して心の安らぎを。

左の太子堂は1112年に再建。檜皮葺(ひわだぶき)の屋根のなだらかな曲線は見られる美しさ。本堂は室町初期築。和様に中国伝来の様式を取り入れた折衷様式。もとは説法や儀式を行う大講堂として使われた。



播州へ。
国宝のあるお寺が
話題です。

播磨には名刹が多く、歴史を刻む建築や仏教美術が身近にあるのは貴重だ。最近では国宝のある寺院のニュースが続々と。山里にたたずむ「朝光寺」は本堂屋根の葺き替えを、本堂と太子堂が国宝の「鶴林寺」は新宝物館が完成。さらに魅力を増したお寺へ。



本堂外観は力強い印象。中は天井が高く、柱が太く、スケールの大きさに圧倒される。和唐様式折衷の特徴がよく表れた扉にも注目。

国宝の本堂が
リニューアル。
ますます美しく!



▷加東市社町畑609 ☎0795-44-0733(吉祥院)
午前8時～午後5時(冬季は午後4時まで) 拝観無料 @200台 案内/電車→JR加古川線西脇市駅から神姫バス、社営業所で天神方面に乗り換え、上久米朝光寺口下車徒歩約50分(本数少) 車→中国自動車道ひょうご東条ICから県道17号線を北西へ。ICから約25分

木々が生い茂る川沿いの道を歩き、細い石段を上ると、仁王門の向こうに国宝の本堂が姿を現す。飛鳥時代、インドの法道仙人の創建と伝わる寺。和様と唐様を折衷した室町初期の重厚な建物を覆うのは、真新しい瓦を葺いた大屋根。昨年秋に3年を費やした工事を終えたばかり。「いつもは静かな山寺ですが、週末には心待ちにしていた人々が参拝に來られます」と丹生住職。近くを流れる滝の水音が響く中、いつまでも眺めていたくなる。

朝光寺
ちょうこうじ | 加東市



丹生さんは塔頭「吉祥院」の住職。「総持院」と交代で「朝光寺」を管理する。仁王門の先には落差10mのつくばねの滝が。

般若心経は〈空(くう)の心〉がテーマだけに、「無」や「空」の字がよく出てくる。執着しすぎない心、偏らない広々とした心を持つ大切さを簡潔に説く。

写経の楽しみ。

随願寺

ずいがんじ 姫路市

聖徳太子の命により、高麗僧恵便法師が開山した姫路市内最古の寺。かつては貴族や武士から多くの信仰を集め、平安時代には増位山山上に36坊が建ち並ぶ大きなお寺だったそう。写経を行うのは本堂前にたたずむ経堂。かつて経を納めていたお堂の中は、こぢんまりとして趣がある。ひと筆ひと筆無心に動かししていると雑念が払われ、心がすっきりする。



写経のあとは…

江戸中期の本堂は堂々たる風格。中には仏像を祀る厨子(ずし)が。獅子、天女、羅漢などの華麗な彫刻に目がくぎつげ。姫路城城主で、江戸時代に寺を再建した榊原忠次の立派なお墓も見どころ。



▷姫路市白国5 増位山

☎079-223-7187
午前9時～午後4時 本堂拝観料=300円 写経=1,000円(要予約) @100台 道案内/電車→JR神戸線・山陽電車姫路駅から神姫バス、白国下車徒歩約30分 車→播但連絡道砥堀ランプから県道518号線を経て南西へ約10分



写経は1,000円。初心者には1時間半ほどかかる。時間がない人には文章が短い花びら型の写経300円も。写経は経堂のほか、寒い日や正座が苦手な人は別棟の会館のテーブル席で行うことも。

仏の教えを説いた般若心経のお

手本に、紙を重ね、筆でなぞる写経が、最近ちよつとしたブームだ。歴史は古く、平安時代には修行として、または病氣平癒や先祖供養のために行われるように。大切なのは「上手に書く」ではなく、「心を込めて書く」こと。書き進むと、心地よい集中力が得られるから不思議だ。「写経をすると気持ちが悪くなる、書き進むと、心地よい集中力が得られるから不思議だ。」写経をするとうまく書けない、心が身につきません」と「随願寺」の加藤住職。静寂の中、心洗われる体験を。

大國寺

だいくに 篠山市

〈丹波茶の里〉として知られる味間奥地区で、飛鳥時代開創と伝わる古刹。赤い毛せん敷きの間に通され、まずは塗香で体を清め、般若心経を唱えてから写経を。その魅力は酒井住職にうかがうと、「のどかな山寺で写経をすると自身の内面を見つめ直すことになり、心の癒やしにも」。本堂拝観や食事とセットで、3〜4時間ゆっくり過ごすのもいい。

写経のあとは…

緑豊かな境内には室町時代の貴重な本堂が。平安時代の一木造りの仏像などのお宝を間近に。土・日曜、祝日のみの精進カフェでは地元の食材を使った精進弁当1,000円、抹茶500円などを気軽に。



▷篠山市味間奥162

☎079-594-0212
午前8時～午後5時 入山料=大人200円 本堂拝観料(入山料込み)=500円 写経=1,000円(要予約) @10台 道案内/電車→JR福知山線篠山駅からタクシー約7分 車→舞鶴若狭自動車道丹南篠山ICから国道176号線～県道36号線を経て西へ約5分



「うまく書こうという雑念は不要ですよ」と住職。利き手の下に片側の手を置き支えると筆の動きがスムーズに。写経のみ1,000円、本堂拝観や精進弁当がセットで2,500円。

花岳寺

かがくじ 赤穂市

赤穂義士ゆかりの寺では、義士の精神と仏の心を学ぶ場「赤穂学林」にて、坐禅、写経、古文書、原始仏教講座などを開講。月2回の写経会では、まず参加者全員で本堂にて般若心経を読み上げ、(身心統一)してから写経をスタート。「只管打坐こそ禅宗の教え。ひたすら坐禅し、お経を一字一字丁寧に書写すると、心もすがすがしく」と総代の前川渉さん。

写経のあとは…

忠臣蔵で知られる浅野家の菩提寺。浅野内匠頭長矩(あさのたくみのかみながのり)公と家臣の大石内蔵助ら義士たちの墓所へはぜひお詣りを。長矩公の命日3月14日には冷光忌法要が行われる。



▷赤穂市加里屋1992

☎0791-42-2068
午前9時～午後4時 拝観料=高校生以上400円、小学生無料 @6台 道案内/電車→JR赤穂線播州赤穂駅から南西へ徒歩約10分 車→山陽自動車道赤穂ICから国道250号線を経て約10分



【赤穂学林】は1985年に設立。写経会は第2・4日曜の午後1時から。坐禅会は毎週日曜の午前6時から開催。参加料なし。いずれも喜捨のみ。写経は随時体験可、1,000円。

兵庫大仏 ひょうごだいぶつ | 兵庫区

大日如来像
 創建 1991(平成3)年(再建)
 高さ 18m
 青銅製



平清盛と縁の深い「能福寺」のシンボルで、奈良、鎌倉と並ぶ日本3大仏のひとつ。1891(明治24)年、豪商・南条莊兵衛の寄進で誕生した初代大仏は戦時下に金属回収されたが、1991(平成3)年に2代目を建立。優しさと厳しさを併せ持つ表情は、いつの時代も心の支え。



能福寺(のうふくじ)

▷神戸市兵庫区北逆瀬川町1-39
 ☎078-652-1715
 午前10時～午後4時 拝観無料 ㊟なし 道案内/電車→JR神戸線兵庫駅から東へ徒歩約8分 車→阪神高速神戸線柳原出口から東へすぐ

鶴越大仏 ひよどりごえだいぶつ | 北区

阿弥陀如来像
 開眼 1932(昭和7)年
 高さ 12.54m
 鉄筋コンクリート製



源義経の〈鶴越の逆落とし〉でおなじみの地にある、広大な墓園の中。遠くに神戸の海を見下ろす高台にたたずむ大仏は、大きな目と鼻、ぶ厚い唇、エキゾチックで親しみやすいお顔が特徴。背後にまわると接近できるので、思わずなでたり、一緒に景色を眺めたいくなる。



鶴越墓園(ひよどりごえぼえん)

▷神戸市北区山田町下谷上字中一里山12
 ☎078-621-5667
 午前7時～午後5時(3～10月は午後6時まで) 参拝無料 ㊟あり ※入園は南門から道案内/電車→神戸電鉄鶴越駅から北西へ徒歩約10分 車→市道夢野白川線(旧西神戸有料道路)丸山大橋東すぐ

DAIBUTSU COLLECTION

インパクトのある仏像ナンバー1が大仏さま。文字通り大きな仏様には、安寧や幸福の願いが込められているもの。地元シンボルとして親しまれている像も多い。その堂々とした大きさ、深い慈愛の表情を実感するなら、お目にかかってこそ!

高砂大仏 たかさごだいぶつ | 高砂市

毘盧舎那仏像(びるしゃなぶつ)
 創建 1907(明治40)年
 高さ 5m
 青銅製



明治末期、日露戦争の戦死者を弔うため、本堂横に建立。当時1万人以上が古鏡、金、銀、銅など合計3tを寄進した。第2次大戦の金属回収の際、壊す日になると不吉なことが相次いだといい、延期されるうちに終戦。穏やかな表情の裏に、戦火を生き抜いた強さを秘める。



時光寺(じこうじ)

▷高砂市時光寺町12-18
 ☎079-447-1134
 午前7時～午後5時(4～9月は午前6時～午後6時) 拝観無料 ㊟20台 道案内/JR神戸線曾根駅から南東へ徒歩約10分 車→姫路バイパス高砂西ランプから北東へ約2分

但馬大仏 たじまだいぶつ | 香美町

釈迦如来像(中央)
 開眼 1994(平成6)年
 高さ 15.8m
 木造



奈良時代に行基が開いた真言宗の古刹。3体の大仏は、中央に釈迦如来、左右に阿弥陀如来と薬師如来が座し、開眼は1994年と新しい。木造坐像としては世界一の大きさといわれ、いずれも見上げる全身に132万枚の金箔が貼りめぐされている。

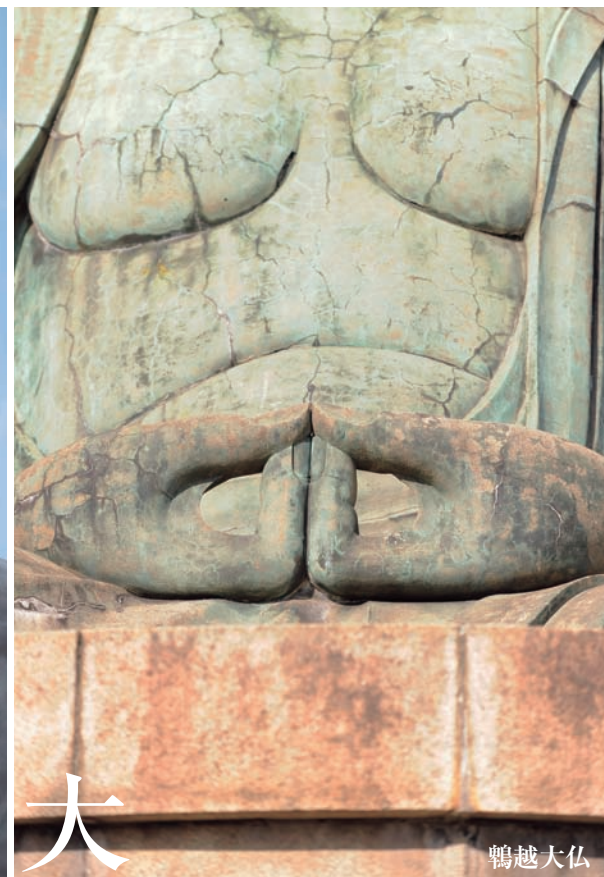


長楽寺(ちやうらくじ)

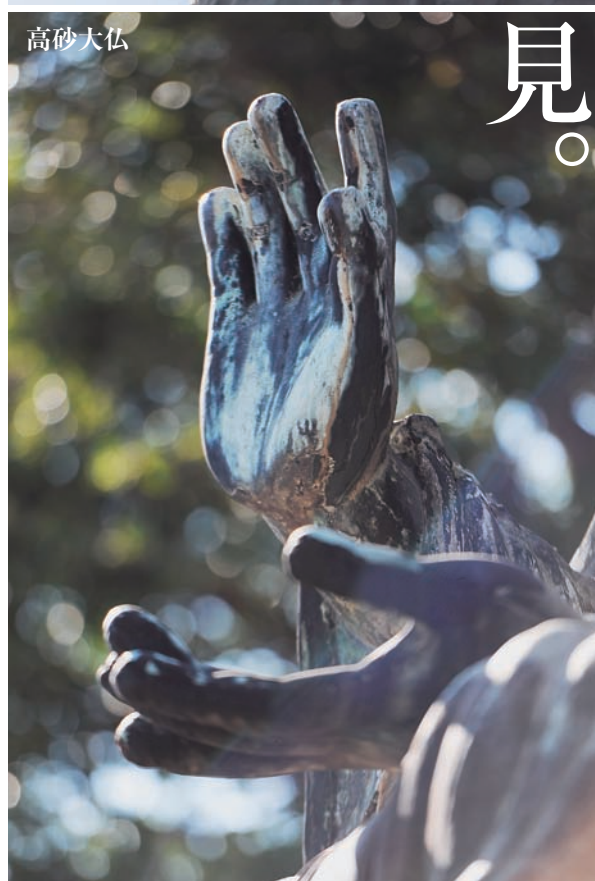
▷美方郡香美町村岡区川会642
 ☎0796-95-1270
 午前9時～午後4時 拝観料=大人800円、高校生以下無料 ㊟70台 道案内/電車→山陰本線八鹿駅から全但バス、峠口下車徒歩約30分 車→北近畿豊岡自動車道八鹿川ノ山ICから国道9号線で北西へ約30分



兵庫大仏



鶴越大仏



高砂大仏



但馬大仏

大仏 細見。

太山寺

たいさんじ | 西区

鎌倉後期再建の本堂は、朱色の柱、青銅色の屋根が印象的な密教本殿式で、神戸市内唯一の国宝建造物。境内は「八葉蓮華」と呼ばれる約11haの原生林に囲まれ、それを借景につくられた兵庫最古の枯山水庭園[安養院]が春秋に公開されるのも楽しみだ。そんな見どころ満載の境内散策と合わせて訪ねたい、椿の見ごろは2月下旬～4月。



▷神戸市西区伊川谷町前開224 ☎078-976-6658
午前8時30分～午後4時30分 拝観料=300円 ③30台 道案内
／電車→地下鉄西神・山手線伊川谷駅からバス、太山寺下車徒歩約3分 車→阪神高速北神戸線前開ICから南東へ約5分



円照寺

えんしょうじ | 加古川市

庭園のようなたたずまいの〈花の寺〉。多彩な花と緑が境内にあふれる。椿は250種500株もの豊富さで、豪華で大ぶりの花が特徴。見ごろは3～4月。2～4月には約300株のクリスマスローズも競演。いずれも花好きの住職が丹誠を込めた見事さだ。

▷加古川市志方町廣尾1029 ☎079-452-2067
午前6時～午後6時 拝観無料 ③20台 道案内／電車→JR神戸線加古川駅から神姫バス、広尾西下車徒歩約3分 車→山陽自動車道加古川北ICから県道43号線を経て南東へ約5分



西林寺

さいりんじ | 西脇市

651年に法道仙人が開いた古刹は、西脇公園のそばに。樹齢200年を越えるという〈唐子椿〉の古木が貴重で、県の天然記念物にも指定。濃紅色の花が咲き、見ごろは3月中旬～4月上旬。境内の高浜虚子、阿波野青敏ら俳人の句碑も訪ね、詩的な気持ちに。

▷西脇市坂本454-1 ☎0795-22-2387
拝観自由 ③30台 道案内／電車→JR加古川線日本へそ公園駅から西へ徒歩約20分 車→中国自動車道滝野社ICから国道175号線を経て南へ約20分



クールビューティな 椿の寺へ。

凛とした気高さ、散り際の美学も愛される椿は、寺院によく似合う花。見ごろは3～4月と、春に向けて散策にも出かけやすい季節だ。待ち遠しい花めぐりを、今から計画しては？



太寧寺

たいねいじ | 篠山市

1443年細川持春公が開いた曹洞宗の寺院。丹波古刹15ヶ寺霊場第2番の寺。本堂、禅堂、庫裡、鐘楼など8棟が整然と並び、禅寺らしい静寂さ。篠山城の鬼門を守る。見どころは城主がお手植えしたという〈殿様椿〉。見ごろは3月下旬～4月上旬。

▷篠山市奥畑193 ☎0795-52-0860
午前9時～午後5時 拝観無料 ③30台 道案内／電車→JR福知山線篠山口駅から神姫バス、篠山営業所下車。タクシーに乗り換え約15分 車→舞鶴若狭自動車道丹南篠山口ICから県道306号線、県道544号線～県道301号線を経て北東へ約25分

